

2020年度第4回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日時：2021年2月25日（木） 午後8時00分から
- 2 方法：ZOOMアプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：7名
出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、堀 渡、堀越洋一郎
欠席者：手嶋孝典
事務局員の参加者：中川恭一

(1) 第1号議案 会員の動向について【報告】

- ・2021年2月1日現在
正会員 82名 2団体 賛助会員 38名 1団体、計 120名 3団体（合計 123）
（2020年10月 正会員 1名、2021年1月 賛助会員 1名が死亡退会）

(2) 第2号議案 コロナ禍での公共図書館運営をめぐる動きについて【報告】

- ・緊急事態宣言下、政府からは昨年4月のような学校や図書館に対する、休校や休館の要請はない。多摩地域では市立図書館の休館はないようだが、都立図書館は来館者サービス休止、埼玉県では、12月下旬ごろから休館する図書館が（県立、市立）何割かに達している。千葉県では市川市等一部の自治体で休館あり。
- ・図書館から利用者への長時間滞在の抑制のお願いや、座席数などの削減、おはなし会などの中止により、同時に館内に滞在している利用者は少ないようだが、貸出数などはかなり戻っているようである。
- ・図書館がコロナ感染の媒介になったという話題は聞こえていない。
- ・政府は今年度、全国の自治体に対して、コロナ対策の臨時交付金の事業を3次にわたって実施している。図書館に対しても、コロナ対策の「図書館パワーアップ事業」が例示された。図書館関係で申請し、交付された自治体では、「電子書籍サービス」の導入や「除菌機」の購入が多かったようである。
- ・今年度は、既に導入していた、または今年度に新規導入した図書館で電子書籍の利用が伸びており好評のようだ。来年度以降、図書購入費予算はどうか、電子書籍サービスの維持費用はどうか注目がされる。
- ・一方、昨春の臨時休館中やそれ以降、書庫を点検する図書館は従来より多かったと推測される。
- ・またデジタルアーカイブのコンテンツを強化したり、ホームページ等で図書館のコロナ対策等を意識的に発信する図書館も一部には見られた。
- ・多摩地域では、館長会や担当者会は、集まる会合は基本的に開催できなかったようだ。
- ・除籍資料担当者会では、昨年度から「多摩地域での除籍・保存の実務的ガイドライン（案）」が議論されている。担当者会が開催できず、アンケートをとるとのこと。

(3) 第3号議案 事業の現状と本年度の見通しについて【報告・討議】

- ・昨年11月29日に、第39回多摩デポ講座、山口源治郎氏講演会「“市民の図書館”の資料保存問題」を開催した。もとは5月の年度総会の記念講演会の企画だったが、コロナ禍で、総会は

委任状による開催にせざるを得なくなり、講演会は中止、開催が延び延びになっていた。秋になっても社会活動を抑制せざるを得ない状況が続く中で、大会場を使い参加者の距離を取ること等には配慮をしての開催だった。講演後の懇親会も今回は行わなかった。

- ・参加は 24 人で、多くの参加者を集めることはできなかったが、何人かの現役図書館員、および県立図書館の新館のあり方の問題にかかわる他県の住民の方の参加もあった。
- ・この講演を元に、今年度の事業計画にあるブックレットの作成を進めている。講師の原稿の最終確定に手間取り、実現しなかった年度内の発行は無理となり、4 月の連休前の発行が現在の目標（そうであれば会員には「総会議案書」に同封して送付できる）となっている。
- ・12 月の時点では、年度内に次の多摩デポ講座を開催したかったが、年末からの感染拡大により、緊急事態宣言が発出し、開催ができなくなっている。都立中央図書館の修復事業の見学会、東京都公文書館の見学等も申込できないままである。
- ・また、総会議案書の今年度提案である、「共同保存図書館」の実現に向けて、館長会と連携を図りながら東京都立図書館に要望していく取組みができないまま、年度末近くなっている。
- ・現在の見通しとしては、コロナ禍が収束に向かうことを前提に、次年度の課題として引き継ぐしかないのではないかと。
- ・TAMALAS 一括処理システムの ID、パスワードは、昨年 6 月に府中市に発行した（10 自治体目）。最近、同市の担当者から、50 万点が収納されている自動化書庫の蔵書の点検に使いたいとの相談が入った。とても大量であること、数万点ずつのデータに区切って同時に複数ファイルを点検にかけること、どんな基準で絞り込むのか、点検後、自動化書庫からどのように対象資料を取り出すのかなど、一括処理システムにとっても使う図書館にとっても大変大きな作業になる事業となりそうだ。
- ・そこで理事が同市を訪ね、館長と担当者に考えや予定を伺った。府中市では、原則として自市で最後の一冊は除籍しないことにしているが、P F I 事業の契約期限を控え、利用価値が低い実用書等については除籍し、少しでも自動出納書庫の容量を軽減したい。そのための基準作りのために TAMALAS 一括処理を利用したいとのこと。安易な除籍を考えているのではなく、基本方針を作り、それに従った除籍を行うことを考えていることがわかった。
- ・「図書館資料の里親探し」事業では、前回の理事会で報告した 8 月の後、10 月、12 月にも調布市から依頼があり、所蔵調査、里親募集をし、全部ではないが成立し、配達した。1 月には八王子市から依頼があったが、不成立だった。
- ・現状の活動からまとめ、『多摩デポ通信』第 56 号を今月末発行を目標に編集中である。

・掲載予定内容

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| ・近況報告・今後の見通し | 座間 |
| ・山口源治郎講演開催報告 | 雨谷 |
| ・遠方から参加した方の自己紹介 | 佐久間 |
| (静岡県立図書館の新館建設に対して意見表明活動している市民からの現状報告) | |
| ・安江明夫氏追悼記事 | 雨谷 |
| ・たましん歴史資料室の活動と蔵書群の紹介と意義 | 堀 |
| ・里親探し事業 | 吉田 |
| ・カーリルとの研究会活動 | 齊藤 |

(4) 第 4 号議案 たましん地域文化財団歴史資料室との連携について【報告・討議】

- ・「たましん地域文化財団」の歴史資料室は、多摩地域を中心に広域的で網羅的に歴史資料を収集、保存、閲覧する事業を続けており、また季刊誌『多摩のあゆみ』を発行している。
- ・公共図書館の地域資料はどうしてもその自治体を主題とした資料が中心となるが、「たましん歴史資料室」の網羅性は貴重である。また、図書、雑誌以外にも、報告書、地図、絵葉書などの印刷資料を幅広く収集しており、多摩地域の歴史系の地域資料の図書館としての存在意義は大きい。
- ・「たましん歴史資料室」は独自に所蔵目録を作り、ウェブサイトから公開している。さらに最近では意欲的に所蔵資料のデジタルアーカイブを公開している。多摩地域の図書館の検索に「歴史資料室」の蔵書検索が関連付けられるようになれば、図書館利用者の目にも止まりやすくなり、利便性は高いと考えられる。
- ・ただし TAMALAS 個別処理の参加館に「たましん歴史資料室」を含めることはできるが、TAMALAS は多摩地域の公共図書館で最後の 2 冊を確認することが目的である。含める場合も「たましん歴史資料室」の蔵書は、最後の 2 冊にカウントしない周知は必要である。
- ・また「たましん歴史資料室」の丁寧に入力されている書誌データを、ISBNのない各自自治体の地域資料の書誌データの書誌割れの解消に向けた研究に生かすこともできる可能性がある。今後、データの精度についても多摩デポとして検証を行っていきたい。
- ・「歴史資料室」の保坂一房室長は、多摩デポには発足時から注目され、第 1 回多摩デポ講座で講演してもらい、それを『多摩デポブックレット』第 2 号として発行しているが、昨年末から（株）カーリルとの研究会に参加していただけることになった。
- ・多摩デポが、多摩地域の公共図書館に提供する「多摩デポ統合検索システム」のために、また多摩地域の広域の地域資料の利用のために、今後、連携を図っていきたい。

(5) 第 5 号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・討議】

- ・TAMALAS 一括処理システムの活用を準備中の府中市のことは第 3 号議案のところで、報告、討議した。
- ・多摩地域での、ある程度の TAMALAS の説明と普及の状況を受け、全体としては ISBN が付加されていない資料の同定や、それにより除籍と保存候補の識別が容易で確実にできるようなれることの研究を続けている。
- ・まだ説明会に参加されていない自治体が多少あり、そこへの説明の打診は続けたい。
- ・一昨年に（株）カーリルのオープンブックカメラで書影を撮影した調布市の地域資料（多摩川関係）のデータを使った書誌同定の実験を進めることは一時中断している。
- ・定例会は、昨年 10 月に Zoom 会議で再開した。当初、コロナ禍による全国の学校の長期休校に対して（株）カーリルが開発し提供した「学校向け蔵書検索サービス」を紹介された。そのために開発したシステムを応用できる対象として、「たましん歴史資料室」の蔵書データへの活用が話題になった。次の回から「たましん歴史資料室」の保坂一房室長に参加してもらい、同資料室の資料の活用と TAMALAS の関係を模索し始めている。
- ・同資料室には、個々の図書館の収集範囲を超えた広域の地域資料が網羅的に収集され、さらに（図書、雑誌類を越えた）公共図書館では所蔵していない資料も数多く揃えられている。また独自システムで蔵書目録も整備され、公開されている。その情報をより広く活用できるよう、（株）カーリルのシステムを使った実験や検討を行っている。
- ・一つの研究課題は、同資料室のデータには、市販図書にも ISBN が入力されていないので、

このままでは TAMALAS には対応できない。同資料室の所蔵資料の中では市販図書の割合は少ないが、該当する資料だけは I S B N を関連付けられれば TAMALAS に組み込んで検索することもできる。そのため、機械的な I S B N 付与の可能性を探っている。

- ・また、こちらの方が重要だが、多摩デポはこの間、I S B N のない図書館資料の同定識別の方法を研究してきているが、そのために、「歴史資料室」の、網羅的に収集し、独自だが豊富な書誌データを活用できないかと考えている。各自治体の図書館の地域資料の、書誌割れによる同定識別の困難を容易にしたい。そのために「歴史資料室」の情報を使うことができないか、研究を続け、成果を上げたい。
- ・そのためには、同資料室の書誌の精度の検証は必要だ。

(6) 第6号議案 2021年度通常総会の開催、および提案内容について【報告・討議】

- ・想定外のコロナ禍の制約で、今年度は予定していた活動を行えないまま年度末を迎えた。
- ・時期的にはもう、4月から始まる2021年度の事業の展開を考え、5月の年度総会をどう開催するかを早急に考えなければならない。
- ・新型コロナの流行によってはリアルな開催ができるのか先が見通せないが、通常総会の日程は5月30日(日)午後、国分寺労政会館で行う予定で準備したい(会場申し込みは今月末となる)。
- ・議案書の骨子としては、今年度の実績は未達成の部分も多いが、年度末が迫るので大幅な変更はできない。来年度の事業提案は今年度までの事業計画を踏襲した提案を基本としたい。
- ・ただし第三号議案(2021年度の基本方針)では、NPOでリアルな共同保存施設を主導して用意することはできない、館長会や図書館現場の関心も盛り上がりや欠くという現状認識と、それを前提に今後運動をどう進めるのかが課題になっていることを鮮明にしたい。
- ・今回の総会には、従来のような総会記念講演会は行わない。
- ・議案書の討議の時間を十分に取って、参加者から今後の多摩デポのあり方について率直に意見を出し合えることを大事にしたい。あるいはざっくばらんな意見交換を総会后に行うことも考えられる。こうした趣旨を事前配布する開催案内で予告し、可能なら委任状の返送用紙の意見欄でも意見を集めたい。
- ・ただし活動方針は理事会側が責任をもって提案する必要がある。今日の議論を踏まえ3月の理事会できちんと意思決定し、第三号議案で提案する。その辺の整理は必要。
「議案書案」は現在事務局で分担執筆中。今日の議論も受けて書き込み、次回の理事会には全文を提案したい。
- ・借用している事務所が3月で2年契約の更新期となるので、借用継続の依頼を家主にしている。

(7) 第7号議案 役員任期満了に伴う新役員提案について【報告・討議】

- ・2年任期の役員任期が終わる年度なので、次の理事、監事候補を決め、総会に提案する必要がある。
- ・現在の理事は全員、再任の理事候補として提案してよいかを諮り、出席者は了承した。
- ・現在の監事の浴靖子氏(東大和市立図書館)、山崎明子氏(元国分寺市立本多図書館長)を再任の候補として提案することを決定した。

(8) 情報交換

- ・事務局からは特になし

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 第 50 回定例会 3月9日(火)午後8時～、 ZOOM を使って
- ★ 事務局会議(2020年度第4回) 3月2日(火)午後8時～、 ZOOM を使って
- ★ 次回の理事会 第5回理事会 3月16日(火)午後8時、 ZOOM を使って

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、清田義昭理事、齊藤誠一理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021年2月25日

議長

議事録署名人